

IV・挨拶
大阪市立大学医学部長 大谷 周造

V・一般演題②
5. 看護用心鈔とターミナルケア 杉田 暉道 (逗子市)
6. 儒学者朝川善庵にあてた水戸徳川家医官の書簡 茅原 弘 (津 市)

7. 神経解剖学者上坂熊勝について 寺畑 喜朔 (高岡市)

VI・特別講演

山本宣治の生涯

友吉 唯夫 (滋賀医科大学名誉教授・豊郷病院院長)

VII・一般演題③

8. 宇和島藩医谷蘭腕の長男・谷泰吉について―特に府立大阪病院廃止事件(明治22年3月)における関わりから― 谷 莊吉 (小松病院)

9. 若き結核医 松田道雄 小松 良夫 (小松病院)

10. 大正四年北里研究所での志賀潔らの講義録 田中 祐尾 (大阪市大)

昨年に続き今回も田中祐尾先生のご配慮で新装の大阪市立大学医学部本館を提供いただき、医学部・第一外科などのご協力・ご援助を得て快適で充実した会を持つことができました。
(長門谷 洋治)

例会記録

六月例会 平成十年六月二十七日(土) 順天堂大学医学部九号館八番教室

一、『医心方』に引用される道書・仏書の同定―『枕中記』『仏説療痔病経』ほか ○荒尾 敏雄・小曾戸 洋

一、大田錦城と医学の接点 町 泉寿郎

一、十九世紀末ドイツのベルリン学派によるヒプルギー (Hypnogie、看護療法) について 平尾真智子

九月例会 平成十年九月二十六日(土) 神奈川県保険医協会

神奈川地方会第十三回学術大会と合同会

一、看病用心鈔とターミナルケア 杉田 暉道
一、金沢文庫新出の古医書について 真柳 誠

特別講演 「看取りの文化とその歴史」 新村 拓

ミニシンポジウム (日本学術会議医史・医哲学研究連絡委員会共催)

「日本における医史料の保存について」 井出 研 (神奈川県予防医学協会理事)

松木 明知 (弘前大学医学部教授)
酒井 シツ (順天堂大学医学部教授)

十月例会 平成十年十月二十四日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、草莽の女医 生澤クノ

石原 昂

一、京の阿蘭陀宿海老屋の実態

片桐 一男

十一月例会 平成十年十一月二十八日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、家紋からみた杉田玄白の遠祖

中西 淳朗

一、〈医は意なり〉攷—医学思想的視点から— 館野 正美

十二月例会 平成十年十二月十九日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

日本薬史学会・日本獣医史学会と合同会

一、日本医史学会が創立されるまで 岡田 靖雄

一、日本の薬学教育史：最近の医療薬学への転換

山川 浩司

一、日本の女性獣医師について 長尾 壮七

例会抄録

十九世紀末ドイツのベルリン学派による

ヒプルギー (Hygiene, 看護療法) について

平尾 真智子

十九世紀末ドイツのヒプルギー (Hygiene, 看護療法) の提唱者は、ヘルミン学派のメンデルゾーン (Mendelsohn, Martin

Alfred 1860-1930) である。一八九〇年代前半にベルリン学派がライデン博士を中心としてこの療法を創始した。

このドイツのヒプルギーについては、明治時代の代表的な医学雑誌『中外医事新報』に富士川游が明治三十三(一九〇〇)年に投稿した「知学的看護法」という文献によって知ることができる。富士川はドイツ語の“Wissenschaftliche Krankenpflege”の訳として「知学的看護法」の言葉を使用した。現在「知学」という言葉はわが国では使用されていない。

このドイツ語の Wissenschaftliche は Wissenschaft の形容詞形で、Wissenschaft の現代の訳は「科学」となっている。「科学」という言葉は、幕末から明治にかけては「個別学問」の意味で用いられ、明治が進み近代日本の学問教育体制が整うにつれて、今日と同じ近代自然科学という意味で定着していった。富士川によって三回にわたって連載された「知学的看護法」には、十九世紀のドイツの医師メンデルゾーン氏の知学的看護法 (ヒプルギー, Hygiene) が紹介されている。その内容は、知学的看護法の定義、歴史、知学的療法における知学的看護法の位置、知学的看護法の治療作用、知学的看護法の治療材料、知学的看護法的作用、結論となっている。

知学的看護法 (Die wissenschaftliche Krankenpflege) とは、知学的認識を根拠として、看護介補品 (Hilfsmittel) を応用する法則を講ずるものである。メンデルゾーンがこの法に「ヒプルギー」 (Hygiene) の名をつけた。

知学的看護法は『看護法時報』 (Zeitschrift für Krankenkun-